

2015年度  
(第1期)  
事業報告書

自 2015年7月1日  
至 2015年12月31日

公益財団法人 杉浦記念財団

## I. 事業の概要

### 1. 主な活動の概況

当財団は、2015年7月1日に公益財団法人に認定されました。そのため、当財団の第1期は2015年7月1日から12月31日の6か月の変則決算となりました。

また、公益化を機に財団名称を公益財団法人杉浦記念財団に変更しました。

以下に、本年度の事業の概要について、報告いたします。

#### (1) 助成、褒賞事業

地域医療の振興に関わる活動等に対する助成と褒賞（定款第4条第1項第1号）

「杉浦地域医療振興助成」、「杉浦地域医療振興賞」の第4回の贈呈と第3回助成の報告会を実施しました。

#### (2) 調査、研究事業

地域医療の振興に係る社会実験への助成、参画（定款第4条第1項第2号）

##### a. 都市型の看護介護医療等連携研究会

「認知症」をテーマとして新たに研究会を開催しました。

一般財団法人の時代に実施した都市型の看護介護医療等連携研究会の成果として地域医療連携モデルの構築と社会実験に向けての研究会の報告書「都市型の看護介護医療等連携研究会講演集」Vol.3を作成、配布を開始しました。

##### b. 医薬品適正使用協働研究会

医薬品適正使用協働研究会を継続的に3回開催いたしました。

地域包括ケアの中で、医薬品適正使用の観点から、チーム医療における協働を進めることを目的といたします。

また、一般社団法人日本老年薬学会の設立準備を行いました。

##### c. 愛知県地域再生・まちづくり研究会

一般財団法人時代にスタートした愛知県地域再生・まちづくり研究会を5回開催いたしました。

人口急減・超高齢化という大きな課題に対し地域がそれぞれの特徴を活かした自律的で持続的な社会を再生できる地域、まちをつくることが望まれています。しかし、現在多くの課題が湧き上がっています。研究会では、可能な限り住み慣れた地域で生活を継続することができる包括的な体制の構築を目的として開催しています。

#### (3) 講座、セミナー事業（一般人対象）

その他前条の目的を達成するために必要な事業（定款第4条第1項第6号）  
「健康増進セミナー」の継続開催

昨年度同様に、東名阪の主要都市において4回開催しました。

(4) 講座、セミナー事業（専門家対象）

医師、薬剤師、看護師等の医療従事者及び介護福祉従事者の育成に対する事業（定款第4条第1項第3号）

地域包括ケアを担う薬剤師を育成し、医師、看護師、その他スタッフとの密接な連携のもとに地域医療における療養環境の充実に貢献することを目的として実施しています。

「地域包括ケアを担う薬剤師の為にインターネット研修」10講座を追加して40講座まで増やし、日本薬剤師研修センターの単位認定の40単位分を集めることができるようにいたしました。

## 2. 決算の概況

### (1) 正味財産増減計算書

第1期におきましては、経常収益は1,249,049円、経常費用は32,578,888円（内、事業費は23,644,946円、管理費は8,933,942円）で、この結果、当期経常増減額は△31,329,839円となりました。

公益化に伴い、税金等が免除された結果、当期一般正味財産増減額は同額の△31,329,839円となり、一般正味財産期首残高が61,695,648円でしたので、一般正味財産期末残高は30,365,809円となりました。

指定正味財産つきまはしは、期中における増減がなかったため、期末残高は期首残高と同様の20,847,910,372円でした。

以上の結果、正味財産期末残高は20,878,276,181円となりました。

### (2) 貸借対照表

現金及び預金等の流動資産は現預金が33,500,949円減少したことを主因に、19,462,816円となりました。

固定資産では、スギ商事の優先株及び基本財産として受け入れた寄附金を運用した投資有価証券が5,737円減少して、20,847,975,532円、その他の固定資産として、健康増進セミナーでの体組成測定の為に購入したInBody機器が1,888,502円、会計ソフトのソフトウェアが70,500円、設立時のその他財産を運用した投資有価証券が10,065,160円となり、資産合計は20,879,462,510円となりました。

負債については、事務局員の人件費、法人クレジットカード等の未払金804,158円等が主たるもので1,186,329円となりました。

### 3. 事業報告

#### (1) 助成、褒賞事業

地域医療の振興に関わる活動等に対する助成・褒賞

#### 【第4回杉浦地域医療振興賞】

褒賞の対象	地域医療を振興し、国民の健康と福祉の向上に優れた成果をおさめ、住み慣れた地域で安心して、その人らしく住み続けることを支援する活動を行った団体・個人の取り組みについて、その主体者である団体・個人を対象に表彰します。
募集・選考結果	2014年10月1日～2014年12月31日を募集期間とし、諮問委員の推薦9編、及び一般推薦3編、計12編の応募がありました。 その内5の個人・団体に対して各200万円、総額1,000万円を贈呈しました。
授与式等	2015年7月9日に帝国ホテル東京にて、第4回杉浦地域医療振興賞贈呈式を実施いたしました。

以上の外、公益財団法人杉浦記念財団発足記念、表彰式、報告書の作成等に要した費用は、6,641,647円です。

その内訳は、下記のとおりです。

費目	金額	摘要
贈呈式費用	4,881,773円	会場費、交通費、謝金等
報告集制作費	1,297,552円	
その他	462,322円	消費税等

第4回 杉浦地域医療振興賞 審査委員は、下記の通りです。

	氏名	所属
委員長	大島 伸一	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 名誉総長
	秋山 弘子	東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授
	柴田 博	桜美林大学 名誉教授・特任教授
	辻 哲夫	東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授

(注)審査委員長を除いて五十音順に配列

(2) 調査、研究事業

地域医療の振興に係る社会実験への助成、参画（定款第4条第1項第2号）

a. 都市型の看護介護医療等連携研究会

「認知症」をテーマとして新たに研究会を8月から3回開催しました。

本研究会の実施に要した費用の総額は1,642,545円で内訳は下記の通りです。

費目	金額	摘要
会議費等	645,618円	弁当代、資料代等
講師料等	390,000円	
交通費	504,325円	宿泊費も含む
その他	102,602円	消費税等

第1回から第3回までのテーマと講師は下表の通りです。

	テーマ	講師	
第1回 (8月)	認知症の人がより良く生きていける社会の実現	柴田範子	特定非営利活動法人 楽 理事長
第2回 (10月)	認知症の有病率と生活障害への対応	朝田隆	筑波大学 名誉教授
第3回 (12月)	認知症を手がかりにした領域・世代を越えたまちづくり	堀田聡子	国際医療福祉大学大学院 教授

都市型の看護介護医療等連携研究会～認知症の人がより良く生きていける社会の実現を目指す～の参加メンバーは下表の通りです。

研究会での役割	氏名(敬称略)	所属・役職
座長	田中 滋	慶應義塾大学 名誉教授
副座長	高瀬 義昌	医療法人社団至高会 たかせクリニック 理事長
副座長	宮島 渡	社会福祉法人恵仁福祉協会 常務理事 アザレアンさなだ 総合施設長
副座長	秋山 正子	白十字訪問看護ステーション 代表取締役・統括所長
アドバイザー	齋藤 訓子	公益社団法人日本看護協会 常任理事
アドバイザー	宮島 俊彦	内閣官房社会保障改革担当室長
アドバイザー	森 貞述	介護相談・地域づくり連絡会 会長(元 高浜市長)
	朝田 隆	医療法人社団 創知会 メモリークリニックお茶の水
	阿部 智子	訪問看護ステーション けせら 管理者
	岡本 茂雄	セントケアホールディング株式会社 執行役員 医療 企画本部 本部長 一般財団法人 オレンジクロス 理事長
	大木 一正	クリーン薬局
	栗田 圭一	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター研究所
	磯村 順司	社会福祉法人 高浜社会福祉協議会事務局長
	伊藤 善典	埼玉県立大学保健医療福祉学部・大学院保健医療福祉 学研究科
	宇都宮 宏子	在宅ケア移行支援研究所 代表
	大澤 光司	株式会社メディカルグリーン 代表取締役社長
	勝又 浜子	公益社団法人日本看護協会 常任理事
	川越 正平	あおぞら診療所 院長
	木全 真理	東京大学高齢社会総合研究機構 特任件教員
	小玉 剛	こだま歯科医院 院長
	後藤 恵子	東京理科大学薬学部薬学科 健康心理学研究室 教授
	澤登 久雄	社会医療法人財団 仁医会 牧田総合病院 大田区地域 包括支援センター入新井センター長 おおた高齢者見 守りネットワーク発起人
	椎名 美恵子	有限会社ふれすか 訪問看護ステーション みけ 代 表
	柴田 範子	特定非営利活動法人 楽 理事長

研究会での役割	氏名(敬称略)	所属・役職
	助川 未枝保	一般社団法人日本介護支援専門員協会 常任理事 千葉県後見支援センター契約締結審査会 副委員長
	高砂 裕子	社団法人南区医師協会 南区メディカルセンター 訪問看護ステーション 管理者
	高橋 紘士	一般財団法人高齢者住宅財団 理事長
	東内 京一	埼玉県和光市保健福祉部 部長
	長尾 和宏	医療法人社団裕和会 長尾クリニック 理事長
	新田 國夫	医療法人社団つくし会 理事長
	野中 久美子	東京都健康長寿医療センター研究所社会参加と地域保健研究チーム 研究員
	馬袋 秀男	一般社団法人「民間事業の質を高める」全国介護事業者協議会 特別理事
	日栄 優	社会福祉法人京都福祉サービス協会 西京事務所 所長
	藤田 正之	(特定)医療法人人医会 理事 西尾市地域包括支援センター中央 居宅介護支援事業者 あいさんケアマネセンター総合センター長
	藤原 佳典	地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター研究所
	船木 良真	三つ葉在宅クリニック 理事長
	宮地 博	社会福祉法人京都福祉サービス協会 居宅本部長
	山村 由美子	社会福祉法人長岡福祉協会 高齢者総合ケアセンターこぶし園 24時間ケアサービスステーション リーダー
	山下 和彦	東京医療保健大学 医療保健学部 医療情報学科 教授
	吉井 靖子	社会福祉法人長岡福祉協会 高齢者総合ケアセンターこぶし園総合施設長
	吉江 悟	東京大学高齢社会総合研究機構 特任研究員

(会員は五十音順)

b. 医薬品適正使用協働研究会

医薬品適正使用協働研究会を継続的に3回開催しました。

また、一般社団法人日本老年薬学会の設立支援を行いました。

本研究会の実施に要した費用の総額は1,520,149円で内訳は下記の通りです。

費目	金額	摘要
会議費等	741,052円	弁当代、資料代等
講師料等	260,000円	
交通費	266,994円	宿泊費も含む
その他	252,103円	消費税等

第6回から第8回までのテーマと講師は下表の通りです。

	テーマ	講師	
第6回 (8月)	ポリファーマシーについて	徳田 安春	地域医療機能推進機構(JCHO)研修センター長・総合診療教育チームリーダー
第7回 (10月)	高齢者の薬物療法における多剤投与の現状と減薬の取り組み	古田 勝経	愛生館小林記念病院褥瘡ケアセンター長(国立長寿医療研究センター特任研究員)
第8回 (12月)	医薬品適正使用に関する薬剤師の関わり～ポリファーマシーの回避～	平井 みどり	神戸大学医学部附属病院薬剤部 薬剤部長

医薬品適正使用協働研究会の参加メンバーは下表の通りです。

役割	氏名(敬称略)	所属・役職
座長	秋下 雅弘	東京大学大学院医学系研究科加齢医学 東京大学医学部附属病院老年病科 教授
副座長	倉田 なおみ	昭和大学薬学部 社会健康薬学講座 地域医療薬学部門 教授
副座長	鈴木 裕介	名古屋大学地域包括ケアシステム学講座 准教授
副座長	水上 勝義	筑波大学大学院人間総合科学研究科 スポーツ健康システム・マネジメント科学専攻 教授
	飯島 勝矢	東京大学高齢社会総合研究機構 准教授
	五十嵐 中	東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学 特任准教授
	大谷 道輝	東京通信病院 薬剤部 副薬剤部長
	大井 一弥	鈴鹿医療科学大学 大学院薬学研究科 薬学部 治療・病態学分野 臨床薬理学研究室 教授
	恩田 光子	大阪薬科大学 臨床実践薬科大学研究室 准教授
	川添 哲嗣	医療法人つくし会 南国病院
	金澤 幸江	一般社団法人土浦薬剤師会 会長
	亀井 浩行	名城大学薬学部 病院薬学研究室 教授
	亀井 美和子	日本大学薬学部 実践薬学系 医療コミュニケーション学研究室 教授
	小島 太郎	東京大学医学部附属病院 老年病科 助教
	後藤 恵子	東京理科大学薬学部薬学科 健康心理学研究室 教授
	佐藤 啓	公益財団法人日本薬剤師研修センター 常務理事
	杉浦 伸一	名古屋大学大学院医学系研究科 医学教育研究支援センター 特任研究部門 医療行政学 特任准教授
	杉浦 昭子	公益財団法人 杉浦記念財団 理事長
	鈴木 匡	名古屋市立大学 薬学部 臨床薬学教育研究センター 教授
	清野 敏一	帝京平成大学 薬学部薬学科 教授
	高瀬 義昌	医療法人社団至高会 たかせクリニック 理事長
	中西 弘和	同志社女子薬科大学 医療薬学科 臨床薬学教育研究センター 教授
	伴 信太郎	名古屋大学大学院医学系研究科 総合診療医学講座 教授
	平井 みどり	神戸大学医学部附属病院薬剤部 薬剤部長

	福島 紀子	慶応義塾大学 薬学部 名誉教授 一般社団法人慶應義塾大学部KP会 副会長
	古田 勝経	愛生館小林記念病院 褥瘡ケアセンター長 (国立長寿医療研究センター特任研究員)
	堀 美智子	医薬情報研究所 株式会社エス・アイ・シー
	丸岡 弘治	医療法人社団協友会 介護老人保健施設 横浜あおぼの里
	溝神 文博	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 薬剤部
	山浦 克典	慶応義塾大学 薬学部 教授 附属薬局薬局長 薬学博士
	山中 崇	東京大学医学部在宅医療学拠点 特任准教授
	湯本 哲郎	星薬科大学 薬剤師職能開発研究部門
	吉尾 隆	東邦大学薬学部医療薬学教育センター 臨床薬学研究室教授 薬学博士 精神科専門薬剤師
	渡辺 謹三	東京薬科大学 薬学部 一般用医薬品学教室

(会員は五十音順)

役割	氏名(敬称略)	所属・役職
オブザーバー	浅井 文和	朝日新聞社東京本社科学医療部 編集委員
	池野 敬	国立障害者リハビリテーションセンター 研究所 福祉機器開発部 非常勤研究員
	寺崎 省子	朝日新聞社東京本社科学医療部 記者
	根本 英一	株式会社 南山堂 「薬局」編集部 編集長
	古川 晶彦	株式会社 南山堂 編集部 編集長
	間宮 郁子	国立障害者リハビリテーションセンター研究所 福祉機器開発部
	吉田 学	厚生労働省 大臣官房審議官(医療介護連携担当)
	平野 悌志	医療法人社団松和会 池上総合病院 循環器内科

(オブザーバーは五十音順)

c. 愛知県地域再生・まちづくり研究会

愛知県地域再生・まちづくり研究会を5回開催しました。

本研究会の実施に要した費用の総額は1,952,232円で内訳は下記の通りです。

費 目	金 額	摘 要
会議費等	889,699 円	
資料費等	17,520 円	
講師料等	370,000 円	
交通費	595,745 円	
その他	79,268 円	消費税等

第4回から第8回までのテーマと講師は下表の通りです。

	テーマ	講 師	
第4回 (7月)	提言に向けて、地域再生、地方分権、住民活動		
第5回 (8月)	地方分権、ケアの在り方		
第6回 (10月)	「まちづくりの中で居方/居場所の概念について」	鈴木 毅	近畿大学建築学部 教授
	「まちづくり活動の枠組みについて」事例紹介も含めて	広石 拓司	株式会社エンパブリック
第7回 (11月)	経産省の政策から見た地域づくり、健康づくり政策	江崎 禎英	経済産業省 ヘルスケア産業 課長
	農林水産省が考える地域づくり、まちづくり政策	渡邊 肇	農林水産省 食料産業局 食文化・市場開拓課 課長補佐
第8回 (12月)	高齢者活躍支援活動 地域から見て	堀池喜一郎	好齢ビジネスパートナーズ 世話人
	高齢者活躍支援活動 職場から見て	加茂田信則	株式会社前川製作所 顧問

愛知県地域再生・まちづくり研究会参加メンバーは下表の通りです。

役割	氏名(敬称略)	所属・役職
座長	大島 伸一	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 名誉総長
	石田 芳弘	至学館大学 伊達コミュニケーション研究所所長 (元犬山市長)
	伊藤 文郎	国民健康保険中央会 常任監事 (元津島市長)
	大沢 勝	愛知県社会福祉協議会 会長 学校法人日本福祉大学 名誉総長
	亀井 春枝	居宅介護支援事業所 (有)はじめの一步 代表
	北川 薫	梅村学園 学事顧問 (前中京大学 学長)
	長谷川 敏彦	一般社団法人未来医療研究機構 代表理事
	森 貞述	介護相談・地域づくり連絡会 (元高浜市長)
	森 道成	オリーブ薬局 代表取締役
	安井 俊夫	愛知県総合看護福祉専門学校 もりのがくえん 校長
	山本 保	愛知県政策顧問「改革の風フォーラム」代表
	杉浦 昭子	公益財団法人 杉浦記念財団 理事長
オブザーバー	青柳 治郎	愛知県健康福祉部医療制度改革監
オブザーバー	小林 弘和	中部経済産業局 地域経済部次世代産業課 ヘルスケア産業室 室長補佐
オブザーバー	出村 嘉朗	中部経済産業局 地域経済部次世代産業課 ヘルスケア産業室長
オブザーバー	丹羽 則雄	愛知県社会福祉協議会 企画室長
オブザーバー	原口 真	国立長寿医療研究センター 企画戦略局長
オブザーバー	大森 政弥	中日新聞 編集局 編集委員
(会員は五十音順)		

(3) 講座、セミナー事業（一般人対象）

a. 「健康増進セミナー」の開催

前年度より継続して、東名阪の市町村単位で4回開催しました。  
これに要した費用は813,493円でした。

費 目	金 額	摘 要
講師料等	800,000 円	1 回 20 万円×4 回
講師交通費	13,493 円	

「健康増進セミナー」の開催日、開催府県、受付人数は以下の通りです。

開催日	開催府県	受付人数
2015 年 7 月 5 日	埼玉県	663
2015 年 9 月 6 日	京都府	647
2015 年 10 月 17 日	岐阜県	792
2015 年 11 月 7 日	神奈川県	300

計 2,402 名

各会場の講師は、下表の通りです。

埼玉	樋口 輝彦	独立行政法人国立精神・神経医療研究センター 理事長・総長
	上原 淳	川越救急クリニック 院長
京都・滋賀	三嶋 理晃	京都大学大学院医学研究科 呼吸器内科学 教授
	峯浦 一喜	国際田園研究所 所長 脳神経外科専門医
岐阜	岩間 亨	岐阜大学大学院医学系研究科脳神経外科学分野 教授
	湊口 信也	岐阜大学大学院医学系研究科循環病態学・呼吸病態学・第二内科 教授
神奈川	梅村 敏	横浜市立大学大学院医学研究科 病態制御内科学（循環器・腎臓内科学）教授
	田中 章景	横浜市立大学大学院医学研究科 神経内科学・脳卒中医学 主任教授

(4) 講座、セミナー事業（専門家対象）

医師、薬剤師、看護師等の医療従事者及び介護福祉従事者の育成に対する事業（定款第4条第1項第3号）

「地域包括ケアを担う薬剤師の為のインターネット研修」を40講座まで増やし、日本薬剤師研修センターの単位認定の40単位まで取得可能としました。

これに要した費用は491,437円でした。

費 目	金 額	摘 要
撮影費用等	250,000 円	5 万円×5 回
日本薬剤師研修センター認定代金	176,647 円	
その他	64,790 円	消費税等

(収入：受講料24名、128,223円)

## II. 事務報告

### 1. 役員

2015年12月末現在の役員氏名は下記の通りです。

役名	氏名	略歴
理事長	杉浦 昭子	スギホールディングス株式会社 代表取締役副社長
理事	秋下 雅弘	東京大学大学院医学系研究科教授(老年病学・加齢医学)
	井口 昭久	愛知淑徳大学 健康医療科学部 スポーツ・健康医科学科 教授 名古屋大学 名誉教授
	大島 伸一	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 名誉総長
	杉浦 伸哉	株式会社スギ薬局医療事業統括本部 統括部長
	高瀬 義昌	医療法人社団 至高会 たかせクリニック 理事長 公益財団法人日米医学医療交流財団 専務理事
	中井 加代子	公益社団法人愛知県看護協会 監事
	鍋島 俊隆	名古屋大学 名誉教授 NPO 医薬品適正使用推進機構 理事長
	野本 慎一	滋賀県立リハビリテーションセンター 所長
	久常 節子	元 国際医療福祉大学大学院 副大学院長 元 公益社団法人日本看護協会 会長
	山村 恵子	愛知学院大学 臨床薬剤学講座 教授
監事	神谷 誠	デトロイトトーマツ税理士法人 名古屋事務所 所長
	平野 晃	公認会計士 元 新日本有限責任監査法人 シニアパートナー

(注) 理事長を除いて五十音順、敬称略

## 2. 評議員

2015年12月末現在の評議員氏名は下記の通りです。

役名	氏名	略歴
評議員会長	杉浦 広一	スギホールディングス株式会社 代表取締役会長
評議員	荒井 秀典	国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター 副院長
	上野 桂子	社会福祉法人 聖隷福祉事業団 監事 社団法人全国訪問看護事業協会 副会長
	木村 隆次	公益社団法人青森県介護支援専門員協会 副会長 一般社団法人青森県薬剤師会 会長
	葛谷 雅文	名古屋大学大学院医学系研究科発育・加齢医学講座 地域在宅医療学・老年科学分野 名古屋大学医学部附属 病院・老年内科 教授
	倉田 なおみ	昭和大学 薬学部 社会健康薬学講座 地域医療薬学部 門 教授
	白澤 政和	桜美林大学大学院老年学研究科 教授 日本学術会議 会員
	杉浦 克典	株式会社スギ薬局 常務取締役事業本部長
	鈴木 匡	名古屋市立大学薬学部 臨床薬学教育研究センター 教 授
	高橋 紘士	一般財団法人高齢者住宅財団 理事長
	田中 滋	慶應義塾大学 教授
	辻 哲夫	東京大学 高齢社会総合研究機構 特任教授
	水流 聡子	東京大学大学院 工学系研究科 化学システム工学専攻 医療社会システム工学寄附講座 特任教授
	豊田 百合子	大阪保健福祉専門学校 副学校長 元 公益社団法人大阪府看護協会 会長
伴 信太郎	名古屋大学大学院医学系研究科 総合診療医学講座 教授	

(注) 評議員会長を除いて五十音順、敬称略

### 3. 事務局組織

2015年度末現在における財団・事務局組織は以下の通りです。

#### (1) 職員構成

事務局長 1名  
経理係 1名  
企画係 1名  
総務係 1名

### 4. 理事会

本年度における理事会は次の通り開催しました。

2015年7月9日 (臨時理事会)	2015年度補正予算の承認	
2015年12月11日 (第1回定例理事会)	2016年度(第2期) 事業計画書及び予算書承認の件	

### 5. 評議員会

本年度における評議員会は次の通り開催しました。

2015年7月9日 (臨時評議員会)	2015年度補正予算の承認	
2015年12月11日 (臨時評議員会)	2016年度(第2期) 事業計画書及び予算書承認の件	書面決議

以上

## 事業報告の附属明細書

2015年度(第1期)の事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書について、特に「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しておりません。

2016年3月

公益財団法人 杉浦記念財団